

令和5年12月5日～7日

鳥羽市議会会議

一般質問通告者一覧表

発言通告者	議席番号	5 番	氏 名	南 川 則 之
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 鳥羽市立海の博物館の保存活用について</p> <p>「海の博物館」は、昭和46年（1971年）に漁村の歴史、民俗、文化をテーマに開館している。</p> <p>国の重要有形民俗文化財に指定された資料も多く、資料の永久保存を第一に平成4年に現在の浦村町へ移転し、その後、平成29年10月3日から「鳥羽市立海の博物館」として新たにスタートをしている。</p> <p>そこで今後の「鳥羽市立海の博物館」の目指す姿について、以下の点について問う。</p> <p>① 豊富な文化財などの活用、保存について</p> <p>② 県内外の教育旅行を含めた受け入れ態勢について</p> <p>③ 海の博物館の施設及び建築物の長寿命化（メンテナンス）計画について</p> <p>④ 今後の利活用について</p> <p><市長、副市長、教育長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	5 番	氏 名	南 川 則 之
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 旧鳥羽小学校の保存活用について</p> <p>中心市街地に位置している旧鳥羽小学校は、95年近くの歴史を持つ建物で、平成22年には登録有形文化財に登録されている。鳥羽市は、旧鳥羽小学校を近代の鳥羽を代表する建物として残し、後世に文化財としての歴史的背景や価値を伝えながら、まちづくりの一環として市民や観光客が集う施設を目指している。</p> <p>そこで以下の点について問う。</p> <p>① 中心市街地のまちづくりについて ② 地域交流の拠点としての保存活用計画について ③ 建築物の改修計画の進捗について ④ 今後の施設、建物の利活用について</p> <p><市長、副市長、教育長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	9 番	氏 名	戸 上 健
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 観光振興策の基本点について</p> <p>市の観光業界にも復活の兆しが見えている。インバウンド需要も「劇的な復活」と報じられている。主産業である観光の復活は鳥羽の経済にとって朗報となる。そこで以下の諸点について問う。</p> <p>① 市長は10月、誘客を目的にフランスを訪問しPR活動をした。手応えはどうであったか。今後の取り組み方向にどのような活路を拓いたか</p> <p>② 世界の「最も魅力的な国」ランキングで日本がトップになり訪日意欲も高まっている。市はこの好機をいかに活かすのか。新年度予算での新たな事業展開はなにか、数年先を見据えた観光戦略をどのように描いているか。「文化観光推進法」の制定に伴う強化方向はどうか</p> <p>③ 宿泊施設は雇用と賃金の問題を抱え行政の支援を求めている。どのような対策を講じるのか</p> <p><市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	9 番	氏 名	戸 上 健
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 「地球沸騰化」時代に抗する地方自治体の取り組みについて</p> <p>気候危機、地球沸騰化から自治体の果たすべき役割が改めてクローズアップされている。そこで以下の諸点について問う。</p> <p>① 急速な気候変動は市民生活と地域経済へどのような影響を及ぼしているか。環境の変化、漁業の状況、人々の暮らしについての認識はどうか</p> <p>② 本市は2022年12月に「鳥羽市ゼロカーボンシティ宣言」を表明した。宣言後この1年間にとった新たな対応策と進展状況はどうか。今後の事業展開はどうか</p> <p>③ 再生可能エネルギーへの転換と脱炭素への取り組み推進が求められている。目標に対する進展状況はどうか。公共施設の断熱化にどう取り組むのか</p> <p><市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	9 番	氏 名	戸 上 健
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 新年度予算編成の基本姿勢と人口減対策について</p> <p>多くの家庭は物価高と生活困窮からなお脱し切れていない。市民の暮らしと市経済に希望の持てる新年度予算が切望されている。そこで以下の諸点について問う。</p> <p>① 子どもの出生数は減少の一途をたどっている。新年度予算で子育て世帯の応援策が求められている。家庭の教育費軽減、学校給食無償化、国保税子ども均等割の軽減等に関し市長としての方向性はどうか。また、子どもの権利条約批准から2024年で30年を迎える。鳥羽市の子どもの権利条例の制定はどうなっているか</p> <p>② ここ数年間決算剰余金は5億円を超している。財政調整基金も目標ラインを超えた。市民の暮らし向上と地域経済活性化を目指し積極財政に舵を切って市民の附託と地域経済活性化策に財政出動するべきときと考えるが市長の所見はどうか</p> <p><市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	2 番	氏 名	山 本 欽 久
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 救急搬送を含めた地域医療について</p> <p>離島における救急搬送については、現状支え合いによって成り立っており、医療においてはオンライン診療などの整備により進みつつあるが、住民にとっては十分とは言い難い状態である。</p> <p>このことから、離島住民の命を守るための市の取組について聞く。</p> <p>① 離島における救急搬送について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送の現状と今後の課題は。 ・住民に頼らざるを得ない状況であるが、今後頼るべき人材がいなくなることへの懸念とそこに向けての準備は。 <p>② 離島における地域医療について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の市内各診療所が担う役割と今後の課題は。 ・地域間の連携及びオンライン診療も含めた地域医療の今後について。 <p><市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	1 番	氏 名	世 古 雅 人
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 人口減少が進む中での市民目線の施策事業の実施について</p> <p>人口減少が進む中、将来を見据えた産業の活性化や子育て支援、高齢者・障がい者等の生きがい対策などの魅力ある事業実施により、鳥羽に住んでいて良かった、鳥羽に住みたいと感じるまちづくりが期待される。</p> <p>市長の任期もあと1年余りとなってきたが、市民の声を大切にした市民目線の手厚い事業実施を願っている。</p> <p>そこで、以下の点について問う。</p> <p>① 市長が目指す地域共生社会の実現と市民目線の施策事業の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥羽市が目指す地域共生社会とは、どういうものか。 ・中村市政後の移住定住、子育て支援の廃止事業とその減少予算額は。 ・令和5年度の人口自然減対策や子育て支援に係る予算額は。 ・人口自然減を少しでも阻止する対策を重要視していく考えはあるか ・第2期鳥羽市子ども・子育て支援事業計画での「定住応援事業」の評価と方向性は何と記述されているか。 ・保育所児童（2歳児以下）が、母親の出産の際に途中退所せざるを得ないのはなぜなのか。 <p>② 鳥羽市の行政分野での課題と問題点への対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長が思う現在の鳥羽市の行政分野における課題と問題点は何か。 ・課題と問題点に対し、市民要望に応じていくために力を注ぐものは何か。 ・課題と問題点の認識は、市長と職員は共通認識しているか。 <p><市長、副市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	4 番	氏 名	瀬 崎 伸 一
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 気象変化が激甚化する中での「治水」について</p> <p>近年、鳥羽市においても、「ゲリラ豪雨」「線状降水帯」といった従来の気象想定をはるかに凌駕する現象が頻発するようになってきている。まさに激甚化ともいふべき変化がそこにあり、鳥羽市は行政機関として関係する様々な部署、機関が、それぞれ毎に持っている従前の想定では、対処しきれていないケースが頻発していると感じる。「水を治める＝治水」という言葉を、鳥羽市内の降雨等の水を管理下に置くとの意味合いで用いた時、今一度、統合的な対策に向けた検討が急務であると感じる。いかなる事態にも対処できるしたたか且つしなやかな鳥羽市となるべく、今回は、市民生活に直結する、住宅地等で頻発する「内水氾濫」、そして、その住宅地等の雨水（下水）の排水経路となり得る道路側溝、更には河川に一体的な視点を置き、以下の諸点を聞く。</p> <p>① 「内水氾濫」を含む事象の鳥羽市内での発生状況について ② 市内各所の排水経路について ③ 内水管理の観点における道路側溝について ④ 水管理の観点における河川、排水路の管理状況について</p> <p><市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	1 2 番	氏 名	尾 崎 幹
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 鳥羽市空家等対策計画について</p> <p>三重県が令和2年に作成した鳥羽都市計画区域マスタープラン（都市計画区域の整備、開発及び保全の方針）においては、空き家・空き地について必要な対策を実施していく旨が記されている。</p> <p>それらを踏まえて、鳥羽市空家等対策計画に関して、以下の点について問う。</p> <p>① 三重県との協議について ② 特定空き家について ③ 特定空き家の指定について ④ 空き家の解体について ⑤ SDGs-11（住み続けられるまちづくりを）について</p> <p><市長、副市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	13番	氏名	世古安秀
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 鳥羽市の地籍調査事業の推進について</p> <p>地籍調査事業は、個人の土地取引から災害復旧や公共事業を推進していくためには欠かせないものである。鳥羽市は今後も高齢化が進むことにより、立ち会いや土地の所有者の確認作業が難しくなり、事業の推進が困難になってくることが想定される。このことから、早急に地籍調査事業を推進する体制づくりが必要であると考え。そこで、以下の諸点について問う。</p> <p>① 現在の進み具合は。</p> <p>② 今後の計画は。</p> <p>③ 調査の手順はどの様に行なうのか。</p> <p>④ 地籍調査の立会において、個人の土地が現況では市道であると分かった場合の対応は。</p> <p>⑤ 事業を進めていく上での課題は何か。</p> <p>⑥ 事業費の財源に国、県の補助及び特別交付税の算入割合は。又、市の負担割合は。</p> <p>⑦ 現在の事業規模を拡大して中心市街地の調査を早急に行なう考えはないか。</p> <p><市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	13番	氏名	世古安秀
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 鳥羽市堅神火葬場の高台移転について</p> <p>鳥羽市は高齢化により火葬場の利用者が今後も増加傾向にあると考えられる。現在の堅神火葬場の設置場所は東海・東南海地震等の津波の襲来が危惧されている。公共施設の火葬場を市民が安心して利用できるように、早急に高台移転を考えるべきである。そこで、以下の諸点について問う。</p> <p>① 堅神火葬場の建設年月と建物の構造は。</p> <p>② 年間の利用者数は。</p> <p>③ 施設の場所の海拔の高さは。「津波浸水区域」に含まれているのか。</p> <p>④ 過去に津波警報が発令され、火葬場の利用者に支障が出たことはあるか。</p> <p>⑤ 建物の耐用年数は。</p> <p>⑥ これまで5年間の改修費用と今後の予定について。</p> <p>⑦ 火葬場利用者である市民の安全安心を図るために、高台移転を行なう考えはないか。</p> <p><市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	11番	氏名	坂倉広子
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ インフルエンザ・おたふく風邪・帯状疱疹に対する市の感染対策について</p> <p>今年10月16日から10月22日の週において、三重県内の1定点医療機関当たりのインフルエンザ患者数が、国立感染症研究所が注意報レベルの目安としている値を超えた。私たちの身のまわりには、日々、様々な疾病のリスクが潜んでいる。</p> <p>第六次鳥羽市総合計画では「健康で安心できる暮らしを支える」を施策の1つに掲げているが、今回、インフルエンザ、おたふく風邪、帯状疱疹の予防にかかる考え方について尋ねる。</p> <p>① 罹患した場合の症状と、その予防のためのワクチン接種法上の位置づけについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザについて ・おたふく風邪について ・帯状疱疹について <p>② ワクチン接種による効果について</p> <p>③ ワクチン接種への公的助成について</p> <p><市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	11 番	氏 名	坂 倉 広 子
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 日常と非常時の壁をなくす新しい取組である「フェーズフリー」について</p> <p>災害用の特別なものを用意して「備える」のではなく、普段から便利に使用でき、災害時には身を守れる、日常時のフェーズと非常時のフェーズを分けるのではなく、日常時にも役立ち非常時にも備えることができる「フェーズフリー」という概念がある。日常と非常時の壁をなくす新しい「備え」を取り入れる事は、今後たいへん重要だと考える。</p> <p>そこで、以下の点について問う。</p> <p>① 観光面での「フェーズフリー」を取り入れた考えについて ② 教育現場での「フェーズフリー」導入の考えについて ③ 公共施設等への「フェーズフリー」の取り組みについて</p> <p><市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	7 番	氏 名	山 本 哲 也
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 鳥羽市の水産業の現状と支援の取り組みについて</p> <p>近年、様々な要因によって伊勢湾の環境が大きく変化している。水温の上昇や、貧栄養化など鳥羽市の水産業において好ましくない状況が続いている。水産業の衰退は鳥羽市にとって漁業者のみならず観光面においても大きな影響があることから、持続可能な漁業を目指し支援していく必要があると考える。そこで、本市の水産業の現状や課題及び課題解決に向けた取り組みについて聞く。</p> <p>① 鳥羽市の水産業の現状について ② 漁場環境の変化による水産資源への影響について ③ 鳥羽市における磯焼けの状況は ④ 対策や支援策について</p> <p><市長及び担当課長></p>			

発言通告者	議席番号	6 番	氏 名	濱 口 正 久
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 「超・人手不足時代」の人材確保について</p> <p>鳥羽市における人材の確保はどの分野においても深刻であり、特に主産業である観光業や飲食業などのサービス業分野や、漁業における人材の確保は喫緊の課題である。日本が「超・人手不足時代」に突入した現在、人材を確保するためには業務の効率化を図り、生産性を向上させる必要があると考える。</p> <p>そこで、未来を担う子どもたちが暮らせる・暮らしたいと思えるまちづくりの「稼ぐ」ための人材の確保について、以下の諸点をきく。</p> <p>① 鳥羽市の産業の現状と課題について ② 鳥羽市の雇用対策について ③ 離職率の低下に必要と考えられることは何か ④ 鳥羽市の産業の労働生産性と付加価値額について ⑤ 経営者及び従業員が稼ぐために必要と考えられる施策について ⑥ 鳥羽市役所の人材確保の現状について ⑦ 市役所の今後の人材確保に必要と考えられることは何か ⑧ 市長が考える「超・人手不足時代」の人材確保について</p> <p><市長及び担当課長></p>			